

第50回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、又木 健文さんにご紹介いただいたこの方は、「美味しいお茶を作りながら、鹿児島若手茶農家をまとめ上げるスゴイ人」とのこと。インタビュアーは江藤 裕一でお届けします。

【今回のスゴイ人】

田之上製茶

田之上 尚満さん



今回は、末吉町にある「田之上製茶」の田之上尚満さんにお話を伺いました。田之上さんは末吉町の出身です。農業高校を卒業後、全国から茶業を学ぶために研修生が集まる野菜茶業研究所で研修を受けました。野菜茶業研究所は静岡県にある農林水産省の研修機関です。

その後、実家へ帰り家業の製茶の仕事をはじめます。田之上さんはお茶を栽培する中で、市場で高い評価を得ているお茶やさんの存在を知り、市場で高い評価を得るため、より質の高いお茶を作るための勉強をしていきます。

そこで野菜茶業研究所時代の全国のネットワークを活用し、また、鹿児島県茶業青年の会など、いろいろな団体に顔を出し、様々な出会いをつくり、情報集めをしていきます。

「技術を学ぶために他のお茶屋さんなど、いろいろな場所へ足繁く通い、教えてもらえるようになりました」

多くの人との出会いが田之上さんの技術を高めていきました。「肥料を振ること一つでも、どういう振り方なら土に馴染むのかなど一つ一つのことに気を遣っていくことで良いお茶ができるんです」とお茶づくりに生かしていきます。

また、田之上さんは収穫の早い錦江町の大根占へ行きお茶を触るそうです。

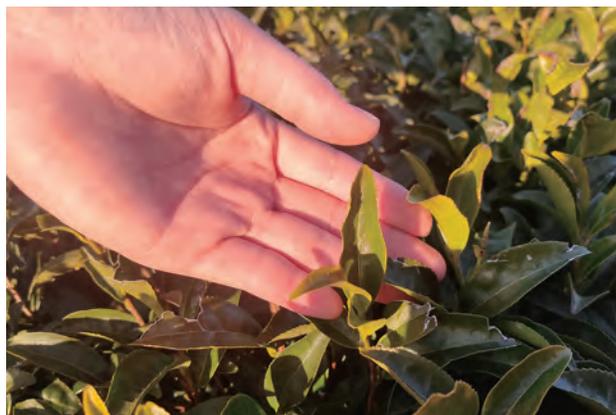
「お茶は手の感覚から経験と想像で作るので、一番茶の感覚を得るためにお茶に触ってきます。その年の天候なども左右し、時期によってお茶の葉の大きさや厚みなどが違うので、一番茶の収穫前にリセットするためでもあるんです」

学んだ技術を積み重ねていくうちに市場での評価も上がり、単価も上がっていったそうです。

「あそこはいつもいいお茶を出すよねと思ってもらえる、お茶をつくり続けることが大事なことであり目標でもあります」

人との出会いを大切にし、一つのことを続けていくことの大事さと想いを語ってくれました。

実は隣の「スゴイ人」



▶インタビューを終えて

「お茶作りをすることは最高の仕事です」と話され地域が活性化していくことを実感し、一つのことを続けていくことの大事さや想いの強さが伝わりました。



協力隊の今日この頃

2月に入り、寒い時がかなり多くなりました。最近では曾於市テレワーク・起業施設「シゴトバ3ラボ」にすることが多く、かんたんにできる動画撮影のレクチャーなどをさせていただいています。

「シゴトバ3ラボ」もまだまだこれからの施設ですが、オンラインやインスタグラム活用、動画レクチャーなど今の時代にあったコトを考えて提供していきます。また、どの様にコンテンツを作っていけば良いかを一緒に考え、作成していくお手伝いもしていきます。今後は起業についての取材もし、インスタグラムなどのSNSでの発信もしていきます。今まで通り相談対応（起業・売上、広告・商品開発、ホームページ作成・移住・二拠点間居住など）も対応をしていきます。アイデアについてお話し、その想いを「カタチ」へとつくるお手伝いもより力をいれていきます。どうぞお気軽にご連絡をくださいませ。

シゴトバ3ラボの最新情報は
公式SNSをチェック

インスタグラム



フェイスブック

